10. FDG-PETにて著明な集積を認めた^{99m}Tc-HMDP骨シンチグラフィ陰性骨腫瘍の2例

古賀 博文 佐々木雅之 一矢 有一
桑原 康雄 大塚 誠 福村 利光
増田 康治 (九州大・放)

骨シンチグラフィは骨腫瘍の検出に広く用いられているが，時として異常集積を示さない症例がある．今回，^{99m}Tc-HMDP骨シンチグラフィにて異常集積を認めず，^{18}F-fluorodeoxyglucoseを用いたポジトロンCT (FDG-PET) にて異常集積を認めた骨腫瘍2例を報告する．症例1は食道癌術後頸椎骨転移例で，骨シンチグラフィ上は異常を認めなかったが，頸椎部にFDGの異常集積を認めた．症例2は多発性骨髄腫の症例で胸部単純写真にて肋骨融解像を認め，骨シンチグラフィでは異常を認めなかったが，FDGの異常集積を認めた．これらの所見の違いは，骨シンチグラフィは腫瘍周囲の正常骨代謝を反映するのに対し，FDGは腫瘍自体の糖代謝を反映するためと考えられる．

11. 分化型甲状腺癌の放射性ヨード治療 ——治療効果に及ぼす諸因子の検討——

川井 康裕 大塚 誠 一矢 有一
桑原 康雄 佐々木雅之 増田 康治
(九州大・放)

甲状腺癌の転移で放射性ヨード治療を行った症例について，治療効果に影響を及ぼす諸因子の検討を行った．対象はヨード治療後2年以上経過観察できた52例で，治療の効果により有効群 (転移巣の縮小傾向を認めるもの) 28例，無効群 (転移巣の増大を認めるもの) 24例に分類した．これを治療効果と年齢，性別，組織型，転移部位，ヨード集積程度，血清サイログロブリン値の諸因子との関係について検討を行った．初回治療年齢は無効群に対し有効群が有意に低かった．転移部位ではリンパ節転移に比べて肺および骨転移では無効群が多く，骨転移は全例無効であった．肺転移でヨード集積が比較的低いものは無効群が多かった．サイログロブリン値1,000 ng/ml以上の高値例は全例無効であった．

12. 新しい腫瘍マーカーCA72-4測定用キット"CA72-4 IRMA KIT"の基礎的，臨床的検討

森山あさみ 佐々木雅之 一矢 有一
桑原 康雄 大塚 誠 福村 利光
増田 康治 山口 育子 (九州大・放)

血中CA72-4の測定は，卵巣癌，消化器癌，乳癌の診断，モニタリングに有用とされている．今回，セントコア製"CA72-4 IRMA KIT"の基礎的，臨床的検討を行った．基礎的検討として，同時再現性，日差再現性，希釈試験，回収率試験を行ったところ，全て良好な結果であった．臨床的検討として，CA72-4の健常者，各種癌患者における陽性率の検討では，結腸・直腸癌で52%，膵胆道癌で52%，卵巣癌で56%であった．また，各種癌患者においてCA72-4とCEA, SCC, CA19-9の相関を比較したが，いずれも全く相関を認めなかった．

13. 当院における腫瘍マーカー検査の推移

黒田 環 大浪 俊平 栄 文也
(産業医大・放部)
石野 洋一 中田 肇 (同・放)

当院における腫瘍マーカー検査依頼状況について調査した．昭和61年度から平成2年度まで過去5年間における腫瘍マーカー件数は昭和63年度をピークに，その後はほぼ横ばいで推移した．また，平成2年度の項目数のまとめを中心とする社会保険診療報酬点数の大幅改正後は，一部の外来診療科において患者当たりの項目数の減少が認められたものの，近年の相次ぐ腫瘍マーカーの登場により，呼吸器系疾患を中心に，多くの外来診療科では複数項目の組み合わせ測定が増加した．

診療内容を低下させず必要な検査項目だけを選択するなど，腫瘍マーカーの上手な利用法を提唱したい．

Presented by Medical*Online